

平成 30 年度西宮市協働事業提案審査会 会議録（要約）

日 時：平成 30 年 6 月 18 日（月）13 時 30 分から 16 時 30 分

場 所：西宮市役所本庁舎 8 階 813 会議室

出席者：【委 員】川東 美千代（副会長）、横田 祥子、河中 昇、坂井 健作

【事務局】市民協働推進課長 谷口 博章、同係長 松野 歳之、同主事 黒木 千聖

欠席者：【委 員】直田 春夫（会長）（大阪北部地震発生のため）

○会長及び副会長の選任について

西宮市附属機関条例第 3 条第 1 項にもとづき、委員の互選により、会長に直田春夫委員、副会長に川東美千代委員を選任した。

○開会

市民協働推進課長より挨拶の後、委員紹介があった。

○事務局

1 提案につき 15～20 分を予定。提案団体のプレゼンテーションで約 5 分、委員からの質疑に約 10～15 分。副会長進行で開始。

1 番目の事業「かまどベンチ火起こし体験（キャンプ事前学習）と防災学習」について

○川東副会長

提案団体からの事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○坂井委員

- ・かまどベンチの鍵は誰が管理しているのか。
- ・火起こし体験は、木から火を起こすのか、ライター等を使用して火をつけるのか。
- ・かまどベンチの存在は近隣住民にどの程度認識されているのか。

◇提案団体

- ・かまどベンチの鍵は中央体育館分館が管理している。
- ・野外活動リーダーに協力してもらい、小さな木屑から火を起こす体験を行う。
- ・かまどベンチ等の新しくできた設備については、地域団体向けの説明会は行われたが、近隣住民にはあまり認識されていないと思われる。今後、『宮っ子』等にも掲載し、地域住民の皆さんに周知していきたい。

○横田委員

- ・収支予算書の報償費の項目に「野外活動リーダー 2 名」との記載があるが、リーダーは地域外の方なのか。また、具体的に何を指導してもらうのか。

◇提案団体

- ・今回お願いする予定の野外活動リーダーは、市民ではあるが地域の方ではない。かまどベンチは 2 つ設置されており、火起こしの指導をリーダーにしてもらう。また、高校生のリーダーと一緒に

に、子供たち向けのゲームの進行等も依頼したいと考えている。本事業は、キャンプの事前学習という位置づけもあるので、キャンプの前にリーダーと親しんでもらえる機会になればと考えている。

○横田委員

- ・食糧費の項目に「米またはアルファ化米」との記載があり、予算によっては普通のお米を使用する可能性もあると思うが、せっかくの機会なので、アルファ化米を使用してもらえれば、子どもたちにとってもいい経験になるのではないかと。

○河中委員

- ・防災学習の講師はどのような方を予定しているか。また、事業実施期間が7月から8月となっているが、イベントは何回実施するのか。

◇提案団体

- ・防災学習については、市の防災啓発課に出前講座を依頼している。日頃の備えについて説明してもらう予定である。
- ・イベントについては、7月下旬に1回の開催を予定している。防災意識は定期的なメンテナンスが必要であり、来年以降も毎年開催したいと考えている。

○河中委員

- ・火を起こして消すというような、体験学習ではないのか。

◇提案団体

- ・当日は、西宮市消防団の安井分団の指導のもとで消火体験も行う。市民共済の水消火器も使用させてもらえる。

○川東副会長

- ・阪神・淡路大震災の発生から20年以上が経過し、子供たちの親世代の中には防災知識の乏しい方もいる。子供が知っていても大人が知らないでは困るので、大人も学習できる機会としてもらいたい。この事業を通じて、新しい設備の積極的な活用や周知が図られることを期待している。

○坂井委員

- ・大変すばらしい提案と思う。近隣住民への事前説明はきちんと行ったほうがいいと思う。

◇提案団体

- ・事業の実施が決定すれば、周辺住民の皆さんにチラシを配布する予定。

○川東副会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

2番目の事業「地域みんなで英語でおもてなし」について

○川東副会長

提案団体からの事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○坂井委員

- ・参加者の語学力向上の効果検証についてはどのように考えているか。
- ・外国人から道を聞かれるというのは偶然性が高い。また、東京オリンピック観戦のために日本を訪れた外国人旅行者が、西宮市を訪れてくるのか疑問に思う。

◇提案団体

- ・7月下旬から2月まで毎月2回程度、全部で14回の講座開催を予定している。最終回には西宮市内の大学に在学中の外国人留学生を招き、具体的な方法は未定だが、参加者の話す英語が通じるのかという検証を行いたい。
- ・西宮北口は外国人が多いので、会ったり話しかけたりできるチャンスが多いのではないかと考えている。地域全体の語学力が向上すれば、外国人からも声をかけやすくなる。
- ・オリンピックに限らず西宮を訪れる外国人観光客は多く、また、西宮に住んでいる外国人も多い。まずは英語からスタートし、今後、他言語の講座も開催できるようになることが理想。控えめな日本人の性格を変えたいと考えている。

○河中委員

- ・講師にはどのような方を招くのか。

◇提案団体

- ・アメリカへの留学経験がある北口地域出身の日本人を予定している。

○河中委員

- ・日本人の発音と外国人の発音は異なる。提案書には「発音に気をつけて学び」と記載されているが、細かい発音やニュアンスの指導という点では、外国人の講師でなければ難しいのではないか。

◇提案団体

- ・正しい発音で話せる方が通じやすいことは分かるが、参加者は地域の幅広い層を想定しているのので、現時点では通じればいいという範囲で考えている。模範的な英語を習得するのは難しいかもしれないが、まずは外国人に話しかける勇気を持つことが必要と考えている。

○河中委員

- ・外国人講師を招き、外国人と話すことに慣れてもらう方がいいのではないか。

◇提案団体

- ・それはもう一つ上の段階であり、現時点では、地域全体で行うことなので、提案しているレベルの内容で実施したいと考えている。今年度実施することを経験として積み上げ、次にステップアップできるように有効に活かしていきたい。

○坂井委員

- ・1年目の目標は西宮を訪れる外国人と会話ができるようになること、2年目は最終目標として、西宮市内在住の外国人と交流を深め、文化を育てること、というように2段階で目標を立てているという理解でいいか。

◇提案団体

- ・そのとおり。外国人在住者の中には、例えばごみの分別など、日常生活の細かいルールで分からないところがあり、困っている方もいると思う。まずは、地域で仲良く楽しく学べることが第一だと考えている。当初は、英語で地域のご案内やおもてなしができればと考えていたが、最終目標として、地域に住む外国人との交流を深めるところまでを目指す必要があると感じている。未来づくりパートナー事業を利用させてもらうからには、最大限有効に活用したい。

○横田委員

- ・地域力向上型の趣旨に沿った提案だと思う。
- ・事業の対象者は主に大人を想定しているようだが、青少年の割合はどの程度で考えているか。子供たちは、物怖じせず他人との距離を縮めることができるので、ぜひ青少年の参加割合を高め

てほしい。

- ・収支予算書の保険料の項目で、「イベント保険料 10,000 円」とされているが、1回 2,000 円で 14 回の講座を実施すると、28,000 円かかるのではないか。
- ・外国人留学生を招いての効果の検証について、最終回よりもむしろ中盤に機会を設け、そこからさらにステップアップを目指してはどうか。

◇提案団体

- ・現時点では、子どもの参加希望者が多い。祖父母と一緒に参加される予定の方もいる。
- ・イベント保険料のことは調べておく。

○横田委員

- ・外国人に地域を紹介するには、まずは紹介する側が地域をしっかり知ることが大切。自分たちの地域について深く学び、地域のつながりを強くしながら、外国人とのコミュニケーション能力を高めることができれば、地域力向上型にふさわしい事業になると思う。

○川東副会長

- ・講師への謝金は計上していないのか。

◇提案団体

- ・講師の方は、ボランティアですと言ってくれている。

○川東副会長

- ・これまでの話から総合的に考えると、英語を話すという前に、外国人を含めて地域の人々がつながり、明るいまちづくりをしていくというようなイメージで捉えてよいか。

◇提案団体

- ・はい。

○川東副会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

3 番目の事業「**地域のがっこう（まちのがっこう）**」について

○川東副会長

提案団体からの事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○坂井委員

- ・「担い手」とは、リーダーのような人材をイメージしているのか。もしくは、実際に運営に携わる若手の担当者を意味するのか。

◇提案団体

- ・「担い手づくり」とは、一緒に地域活動に携わってくれる方を育成すること。鳴尾東地域では、地域活動は活発に行われているが、メンバーが高齢化しており、次の担い手がいなければ、地域も事業も続かないという危機感を抱いている。

○坂井委員

- ・地域活動にはどのような活動があるのか。

◇提案団体

- ・例えば、地域のお祭り、運動会、野外活動、キャンプなど、様々な地域活動がある。地域活動を

行うメンバーが高齢化すると動きにくくなるため、若い人材を発掘し、今後も活動を引き継いでいかなければならないという思いで、今回提案させていただいた。

○坂井委員

- ・「がっこう」を開校し、郷土の歴史を学ぶようなイメージなのか。

◇提案団体

- ・自分が住んでいる地域に魅力を感じないことには、地域活動に携わる気持ちにもならないので、まずは自分の住む地域の成り立ちも含め、どのような地域なのかということ座学で学ぶ。その後、まち歩きを行う中で、鳴尾地域は素晴らしいところだと認識してもらうことが今回の事業の目的である。

○横田委員

- ・若い世代を巻き込むことを第一に考えていると思うが、授業は平日の夜間や土日の開催を想定しているのか。
- ・収支予算書の委託料の項目に記載されている「製作物デザイン委託料 20,000 円×2名」とは、どのような内容を予定しているのか。

◇提案団体

- ・仕事を持つ方は、平日昼間に開催すると参加できない可能性があるため、土曜日や夜間の開催を考えていきたい。
- ・最終的な製作物の仕上げにかかるデザイン委託料。今回の事業についてまとめるものだが、具体的な内容はまだ決まっていない。

○横田委員

- ・参加者自身の意思や意欲を確認するため、参加費を集めるのはいいことだと思う。総事業費は 285,000 円であり、参加予定者数の 40 名で割ると、一人あたり約 7,000 円ということになるが、その金額は妥当と考えているか。

◇提案団体

- ・妥当かどうかは分からないが、このくらいの金額はかける必要があると考えている。事業の終了後に、この金額でよかったのか、もう少しかけた方がよかったかという振り返りをすると思うが、今回は1年目なので、このような形で計画している。

○川東副会長

- ・会場として予定しているまち cafe などには、一般のお客さんがたくさんいると思うが、この事業を開催する時は、事業参加者のみ入場可能とするのか。
- ・進級制にするとのことだが、その年の目標のようなものは設定するのか。

◇提案団体

- ・まち cafe などの営業時間外の実施を予定している。
- ・1回目は座学、2回目はまち歩き、3回目は地域の現状についての話し合い、4回目はまちづくりのために次年度以降つなげていけるような取組を実施したい。「がっこう」という形態なので、1年で終了するのではなく、2年生、3年生と段階的な形を考えている。

○河中委員

- ・バックアップの方法について、担当課の意見を聞きたい。

◇担当課：地域担当課

- ・地域と関わる部分での後方支援や、市が持っている情報を提供させていただく。

○河中委員

- ・若い世代の方を引き付ける方法についてどのように考えているか。

◇提案団体

- ・模索中の部分もあるが、中高年の定年退職後の方が興味を持たれることをしていきたい。まち cafe なごみに来て、お茶を飲みながら会話をする中で、住民同士のつながりを作ってもらいたい。そして、その方々のつながりをもって、若い世代にも参加してもらえそうな形を目指したい。

○川東副会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。

4 番目の事業「働くパパ・ママのネットワーク作り事業」について

○川東副会長

提案団体からの事業概要について説明をお願いします。

→提案団体から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○坂井委員

- ・座談会を開催するだけで、課題は解決するのか。コミュニケーションをとった後、その効果をどのように示すことができるのか。
- ・「働くパパ・ママ」とあるが、むしろシングルの方にこのようなつながりが必要ではないか。

◇提案団体

- ・働くパパ・ママが困っていることについて、一人で市に問い合わせるのはハードルが高い。まずは座談会で意見を出すことで、他の経験者から答えが見つかるかもしれないし、子育て総合センターからもアドバイスがもらえるかもしれない。また、開催後にはブログで報告を行う予定であり、ブログを見た人もそこからヒントを得てもらえればと考えている。
- ・効果については、テーマを設定して話し合う朝活会をこれまでに 20 回以上開催してきたが、元気がもらえるなどのプラスの評価を毎回いただいている。また、参加者アンケートからも事業効果の確認ができる。
- ・シングルの方がこのようなつながりを必要とされているということについては、そのとおりでと思う。今回の座談会は、働くパパ・ママ揃っての参加を求めているのではなく、シングルの方ももちろん参加してほしいし、その経験を共有することができれば、より有意義な場になると思う。

○河中委員

- ・安全面を考えると、専門の保育士を配置する必要があるのではないか。

◇提案団体

- ・今回は託児を予定していないので、予算に組み込んでいない。保護者の目の届く範囲でそれぞれ子供を見ながら参加してもらいたいと考えている。

○河中委員

- ・担当課の意見を聞きたい。

◇担当課：子育て総合センター

- ・担当課として一番重視している点は、子育て中の親の孤立化を防ぐということ。在宅家庭の親は、全市的に展開している子育て広場で色々と話することができる。今回の提案は、働いている親こそ、日々の時間に追われ、地域とのつながりができにくいという内容。動きが活発な子供を見

ながら、深い話をするのは難しいかもしれないが、まずは顔見知りになり、つながりを作るという効果を期待している。子育て総合センターが持つ座談会のノウハウを提供させていただこうと考えている。

○横田委員

- ・提案団体では、定期総会を開催しているか。

◇提案団体

- ・定期総会を開催していない。今回のような事業を実施させていただくにあたり、今後は開催していきたい。

○横田委員

- ・今後、市の助成金を得て事業実施するのであれば、会計監査等も必要になってくる。
- ・現代社会のニーズに沿った有意義な事業だと考える。

○川東副会長

- ・市の子育て支援が受けられない方や、自分たちで話しているだけでは解決しないこともあるので、市のアドバイスを受けて、効果的に実施してほしい。

○横田委員

- ・若い世代同士の横のつながりだけでなく、それぞれが住む地域での縦のつながりを大切にしながら、今後の活動を展開してほしい。

◇提案団体

- ・今後、地域とのつながりも作っていければと思う。

○副会長

- ・結果は後日、事務局からお伝えする。
- ・以上の4件でプレゼンテーションを終了する。

〈第2部 審査〉非公開

○事務局

- ・では、1番目の事業「かまどベンチ火起こし体験（キャンプ事前学習）と防災学習」について、採点結果は採択となるが、各委員から意見をお伺いしたい。

○川東副会長

- ・旧芦原小学校グラウンドに設置されたかまどベンチを活用し、地域で防災訓練や防災学習を実施することにより、地域の子供たちの防災意識を高める効果が期待できる。地域の消防分団の指導のもと、危険なく安全に実施してほしい。
- ・近隣の小学校と中学校だけでなく、保育所等にも広く周知することも視野に入れてほしい。

○横田委員

- ・内容が具体的で実現可能性も高く、有意義な活動と考える。

○河中委員

- ・1回のみの実施でどこまで防災学習の効果があがるかについては疑問を感じる
- ・防災に関する知識があるのとないのでは、災害時の対応も変わってくる。地域住民の防災意識の向上に資する事業となることを期待する。

○坂井委員

- ・私自身かまどベンチの存在を初めて知った。この事業のターゲットを大人にするのか、子供にするのかという点で曖昧さはあるものの、大きな災害が発生した時にどこに集まればいいのか、炊き出しはどのように行うのかというように、子供たちにとって、避難場所や非常食等に関する知識が身に付くという意味では、とても有意義な活動だと思う。

○川東副会長

- ・旧芦原小学校グラウンドに新たに設置されたかまどベンチなどの設備について周知が図られることで、若い世代をはじめとした多くの人が地域のことを知るきっかけになればいいと考える。

○事務局

- ・では、2番目の事業「**地域みんなで英語でおもてなし**」について、採点結果は採択となるが、各委員から意見をお伺いしたい。

○川東副会長

- ・北口地域には、以前から様々な方が住んでいることや、多くの外国人観光客が日本を訪れていることから、このような着想を得たのだと思う。提案書の記載内容からは参加者に高いレベルを求めているようにも思えるが、実際の実施内容との間にギャップを感じた。14回の講座だけで、きちんと英語を話せるようになるのは難しいのではないか。

○河中委員

- ・東京オリンピックが目的となると、関西にはあまり関係がないように感じた。しかし、母国語以外の言語を覚えること自体はとても大切なことと思う。

○川東副会長

- ・地域イベントに外国人を招くようなかたちでの国際交流は各地域で行われていると思うが、地域で外国語を学ぶ機会をつくるというのは新しい試みであり、先駆性が認められる。

○横田委員

- ・英語はあくまでも手段であり、重要なのは、事業を通じて地域を活性化したり、地域の若い人たちを巻き込んだりということ。それが地域力の向上につながると考える。提案団体が持つネットワークを生かした事業実施が期待され、先駆的な取組と言える。

○河中委員

- ・北口地域からグローバルな人材が育成されることを期待している。
- ・実施手法や効果については疑問があり、もう少し工夫が必要と思われる。例えば、外国の文化に関する内容を取り入れたり、外国人に西宮や日本の歴史などを伝えたりすれば、外国人とのコミュニケーションがとりやすくなると思われる。

○川東副会長

- ・実施手法については、国際交流協会からアドバイスを受けてたり、すでに実施されているイベントに参加されている外国人にも講座に参加してもらうことができれば、より有意義な事業になるのではないかと。挨拶代わりにハグや握手をしてくる外国人が多い一方で、日本人にはそのような習慣がなく抵抗を感じる人も多い。外国の方と交流する中で、外国人との接し方も学ぶことができるし、よりフランクに会話ができるようになると思う。

○坂井委員

- ・提案団体の熱意は伝わるが、実施手法に違和感があった。提案の趣旨からすると、外国人から話しかけられたときに、きちんと答えることができるだけの語学力を習得できればベストだと思う

が、日本に來ている外国人の立場で考えると、いきなり話しかけられると迷惑という可能性もある。外国人観光客よりも、地域に居住している外国人に対象を絞ったほうが良いと感じた。

- ・東京オリンピックと地域に住む外国人と仲良くなりたいという最終目的とのつながりが分かりづらい。

○川東副会長

- ・北口地域からこのように先進的な取組が発信されるのは素晴らしいこと。外国の方への理解が進むような取組になってほしい。
- ・実施されるからには一過性で終わるのではなく、今後の実施方法についても検討しながら、継続的な活動になることを期待する。

○事務局

- ・では、3番目の事業「**地域のがっこう（まちのがっこう）**」について、採点結果は採択となるが、各委員から意見をお伺いしたい。

○川東副会長

- ・カリキュラムのことやクラス分けをやるかどうかなど、もう少し詳しい内容を知りたかったが、そこまでは確定していないように感じた。地域でこのような活動を進め、若い人たちとつながるのは非常にいい動きだと思う。また、住民同士でお互いのことが分かるようになれば、防災にも役立つのではないかな。
- ・地域で講座を行う活動を「がっこう」として捉えているのは新しい考え方であり、事業名称自体に先駆性が感じられる。
- ・審査項目の「協働の妥当性」の面から考えると、提案団体単独で実施できる内容とならないように、市としっかり協働してほしい。

○横田委員

- ・提案団体の本来事業の延長のような印象を受けた。若い世代やこれまで地域に関わっていなかった人たちを引き入れるような、新しい「がっこう」という取組にできれば、よりよい事業になるのではないかな。
- ・開催場所を普段の活動場所に限定するのではなく、公民館などでの開催も検討してほしい。

○河中委員

- ・事業に対する地域住民の興味や関心を集めるための手法の検討が必要。お揃いのユニフォームを作成するなど、見た目も大事である。近隣の大学生にデザインをお願いすることも考えられる。

○坂井委員

- ・プレゼンテーションからは特徴的なものがあまり感じられなかったが、単に地域のことを学ぶだけでなく、地域活動の担い手づくりにつなげていくということであれば、一定の公益性や効果が認められる事業と考える。
- ・進級制の仕組みについて、例えば検定試験を実施するなどの工夫も検討してほしい。

○横田委員

- ・1年間の事業終了時に修了証を発行し、学んだことを一人ずつ発表する場を設けるなどの仕組みがあれば、事業の効果も高まるのではないかな。

○川東副会長

- ・1年間の学びの結果や効果を測るような仕組みがあってもよい。学んだことを振り返るとい

はとても重要である。

○事務局

- ・では、4番目の事業「働くパパ・ママのネットワーク作り事業」について、採点結果は採択となるが、各委員から意見をお伺いしたい。

○川東副会長

- ・この事業は、若い人が取り組むことに一つの意義があると思う。
- ・座談会を開催する5地区の分け方の意図がよく分からなかった。開催場所は公民館と記載されているが、全ての地区に公民館があるわけではなく、あったとしても空きがないこともあるのではないか。

○事務局

- ・提案書に記載の開催地区はあくまで暫定的なものであり、事業実施が決定すれば、関係課とも協議のうえ、効果的な実施地区について検討することになる。また、市の役割の一つとして場所の確保もある。

○川東副会長

- ・平日夜間もしくは土日の開催を考えているとのことだが、地域でも土日に様々な活動が行われている。自分が住んでいる地域のことを知るができるように、市から提案団体に情報提供をしてもらいたい。同じ年齢層で活動を行うと閉鎖的になり、問題解決につながらない場合も多い。横田委員の発言にあったように、子育てには縦と横のつながりが必要と思う。様々な活動が行われているということを知ったうえで、自分たちの活動に取り組みれば、より効果的な事業になるのではないか。
- ・開催日が土日となれば、使用できる会場も限られてくる。
- ・審査項目の「効果」の点について、今回予定している座談会が、単なる「お楽しみ会」で終わってしまうのではないかということが懸念される。

○横田委員

- ・私も30年以上前に西宮市に来て、一人目の子が生まれた時に、周りどどのようにしてつながっていけばいいかということを試行錯誤しながら色々やっていたことを思い出した。今の若い世代の人たちは、平日はほとんど仕事をしている中で、その合間に様々な情報を得たり、仲間を作ったりと忙しくしている。そのような中で、自分たちから発信しようとしている気持ちを大事にしたい。
- ・座談会が、自分が住んでいる地域の情報を集め、それらを持ち寄って話ができる場にもなってほしい。座談会で聞いた話をきっかけに地域の人と話をする中で、地域に馴染んでいくことができればと思う。

○河中委員

- ・昔と比べて今の子育ては祖父母のサポートが少なく、特に精神的な負担が大きいと思うので、それらをバックアップする仕組みが必要。様々な年代の人たちを巻き込み、幅広い知識を取り込むことができるよう、関係課がサポートしてあげてほしい。
- ・土日に座談会を開催するということだが、参加者は集まるのか。休日に参加するのは、このような活動を求めている、ごく少数の方だけではないか。また、5地区で開催を予定しているが、範囲が広すぎるように感じた。

- ・今回、参加費は無料とされているが、価値を持たせるために、参加者に少しでもお金を支払ってもらうことも大切だと思う。

○坂井委員

- ・今の時代の流れに沿った事業であり、高く評価したい。ただ、審査項目の「効果」の面から考えると、この事業を実施することで、本当に課題解決につながるのかという疑問はある。参加者の悩みを和らげることはできるかもしれないが、例えば目的の保育園に入園できるかということは別の問題であり、提案団体の努力ではどうにもできないこと。

○川東副会長

- ・最近のお母さんの中には、地域で活動することによって自分の家庭の内情が分かってしまうことを嫌がり、遠くのグループに参加して、その場限りの話をするだけでいいと考える人もいる。この事業についても、住んでいるところから遠い場所で参加し、その後につながらないということもありうる。今回の提案はネットワークづくりがテーマなので、そこを掘り下げて検討した上で実施してもらいたい。
- ・対象者は「パパ・ママ」となっているが、パパをどのように呼び込んでいくのが課題だと思う。

○河中委員

- ・やはり、市からアイデアや情報を提供するというようなバックアップが必要。

○副会長

- ・以上で審査会を終了する。